

15年目の福島で、あらためて「復興」を問う ～被災地と私たちの物語～

ZOOMによるオンライン開催



【日時】 2025. **12/7** (sun)

13:00-16:30 (予定)

開場**12:45**

2011年3月11日の東日本大震災発災後、毎年東北被災地域に訪問し、貴重なお話を聞かせていただきました。今年度の訪問は、復興の名の下で作られた新しいマチの風景が広がる福島とその周辺を中心に、多くの方々に震災後の「小さな物語」をお聞きするとともに、「災厄からの復興とは何か」、「非当事者にどのように伝えるのか」を問いながらの現地実習でした。

本シンポジウムでは現地を訪れた院生の報告、さまざまな立場から「語り継ぐ」ための活動を展開している方々にもご発言いただきます。シンポジウムは、どなたでもご参加いただけます。

★事前申込みが必要です。

みなさまのご参加をお待ちしております。

シンポジウムプログラム、ご発言される方の詳細につきましては裏面をご覧ください。

【申込み方法】

①右のQRコードから



②メールから ejfspj2011@gmail.com

＊件名「2025シンポジウム参加申込み」

＊本文に以下①～⑤をご記入願います。

①メールアドレス

②お名前

③ヨミガナ

④当日つながる連絡先

⑤属性（学生、院生、会社員など）

締切：11月30日（日）

13:00～ 開会

研究科長あいさつ

矢藤 優子（立命館大学大学院人間科学研究科長）

プロジェクト概要と企画趣旨

村本 邦子（プロジェクトリーダー／人間科学研究科 教授）

第1部 活動と学びの報告

進行：村本 邦子

- ・院生報告 2025年度プロジェクト概要の紹介と院生たちの語り

（休憩）

プログラム（発表順）が一部変更となる場合がございます。ご理解ご了承賜りますよう、お願い申し上げます。

15:10～

第2部 「語り継ぐ」ためのさまざまな活動

進行：参加院生メンバー

- ・高校生たちの活動報告

自由の森学園高等学校選択講座「東北と復興」メンバーの高校生と

内田 一樹氏（立命館大学大学院人間科学研究科博士課程後期課程、自由の森学園中学高等学校 社会科教諭）

- ・現地の皆様からの報告

宮城県 多賀城市 丸山 隆氏（元多賀城市役所職員）

宮城県 仙台市 加藤 恵子氏（みやぎ民話の会会員）

福島県 白河市 小磯 厚子氏（NPO法人しらかわ市民活動支援会 おひさまひろば 副代表）
※ビデオレター

渡辺 久子氏（NPO法人しらかわ市民活動支援会会員）

永岡 真由子氏（NPO法人しらかわ市民活動支援会会員）

相馬郡新地町 村上 美保子氏（新地語ってみっ会会員）

相馬郡小高町 中筋 純氏（おれたちの伝承館館長・写真家）

16:00～

交流会 全体の意見交換 ブレイクアウトルームで懇談

（終了予定16:30）

2011年3月11日に起きた東日本大震災を受け、人間科学研究科の前身である（旧）応用人間科学研究科に「東日本・家族応援プロジェクト」を立ち上げました。この複合大災害に対して、細く長く、十年間、現地に足を運び、現地の支援機関と協働して対人援助のプログラムを提供しながら、人々と出会い、土地を感じ、被災と復興の証人になろうと考えました。十年目のコロナ禍ではオンライン開催となったため、11年目を一区切りとし、東北4県に通い続けました。2022年からは、いまだ復興の姿が見えない福島を中心に「東日本・家族応援プロジェクト+（プラス）」としてプロジェクトを継続してきました。

2025年12月

プロジェクト代表 村本邦子